

皆さんは、今年の M-1 グランプリをご覧になられたでしょうか？日本中の漫才師たちが、1年間鍛え上げた自らの腕を魂をかけて披露する、国民的なお笑いコンテストである。

史上最年少で優勝を果たしたのは霜降り明星。関西を中心に活躍していた彼らは、ハイテンションで動きのあるボケとエッジの効いたワードセンスとインパクトのツッコミで見事、見事日本中を笑いの渦に巻き込んだ。他にも、確実な腕で観客を引き込む話芸に定評のある和牛、飛び道具的なスタイルを貫いたジャルジャル、今年が最後の出場となるが苦汁を嘗める事となったギャロップなど、様々なドラマを見る事ができた。

そんな中、世間を騒がせたのが前回王者とろサーモン久保田と今回のファイナリスト、スーパーマラドーナの武智のインスタライブでの“審査員批判”だ。実名は出さなかったものの、「オバハン」「更年期障害」といった女性蔑視とも言える言葉で審査員の上沼恵美子を批判したのだった。

上沼恵美子といえば、海原千里万里として十代にして圧倒的なしゃべくり漫才でデビューし、元関西テレビの重役と結婚したことで関西に残り、そのまま文字通り関西お笑い界を牽引し続けてきた“笑いのレジェンド”と言える存在である。

審査員として、私情を交えたような発言をした事に、公平性を欠くような印象を抱いた彼らは腹を立てたようだったが、私はそんな彼らをととても腹立たしく思う。

M-1 グランプリでは、審査員もまた芸人なのである。自ら笑いを作り出す人たちが顔を出して人の笑いを評価する事は大変な責任である。だから明石家さんまのように審査員になる事を拒否する者もいる。その中で、ショーとして、30秒で自分たちも笑いを取らなければならないというだけの事で、不公平な意識で審査しているはずがないのだ。というよりそもそも、笑いとはごく主観的なもので、そもそもそこに公平性などは存在しない。誰かの笑いによって誰かが傷つく事もあるし、常識的な予想を上回るから面白いのだ。

そんな事は、とろサーモンの久保田、芸風からしてお前が一番理解してないきゃダメじゃないか？少なくとも、笑える形で応酬しなければならなかったのではないだろうか。